

【p 10～p 13】 未来にのこそう 私たちの浄土寺

1 資料活用にあたって

- 本資料は、主人公のひとみが「浄土寺は郷土の誇り」と感じることに焦点をあてて内容項目をC（17）で扱うが、神々しい光景に感動するひとみの心に焦点をあてれば、内容項目D（21）として扱うこともできる。その場合、12ページ15行目まで範読したところで、阿弥陀様の映像を使い、子どもたちにひとみと同じような美しい神々しい光景に浸らせると効果的であろう。
- 本資料は、あくまでもひとみを主人公として考える。前半部分の姉の心情に深入りしない。

2 資料の読み方のポイント

- ※ 展開の具体例は、内容項目をC（17）と想定して示している。
- 変化するのは：ひとみ（子どもが「ひとみ」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：阿弥陀堂の中の神々しい光景
- 変化するところは：「はっと息をのんだ」

3 読み物資料の素材について

【参考URL】

- ・ 国宝 浄土寺（小野市観光協会HP「おの観光ナビ」） <https://ono-navi.jp/spot/463/>

【訪れたい場所】

- ・ 国宝 浄土寺 〒675-1317 小野市浄谷町 2094 Tel 0794-62-4318
拝観時間 9:00～12:00 / 13:00～17:00（ただし10月～3月は16:00まで）

※12月31日・1月1日は堂内拝観出来ません。

- 浄土寺について
 - ・ 小野市浄谷町にある高野山真言宗の寺院、1190年～1198年の創建である。
 - ・ 開山は俊乗坊重源（しゅんじょうぼうちょうげん）、重源上人とも呼ばれる。
 - ・ 仏師快慶の大作「阿弥陀三尊像」は特に著名。
 - ・ 浄土堂は大仏様（だいぶつよう）建築。現存する大仏様建築物は浄土堂と東大寺南大門のみ。
- 俊乗坊重源について
 - ・ 平安時代末期から鎌倉時代にかけての僧（1121年～1206年）。東大寺大勧進（だいかんじん）職として源平の争乱で焼失した東大寺の復興を果たした。大勧進とは、寺院建立のために事業計画のすべてをまかされ、立案と予算の執行権をふるうことができるリーダーのこと。重源は大仏再興事業の拠点として、伊賀（三重県）、周防（山口県）など日本の7か所に東大寺の別所を造った。そのうちの播磨別所が浄土寺である。
- 浄土堂について
 - ・ 重源の採用した大仏様の代表的遺構であり、国宝に指定されている。西背面は三間すべてを蔀戸としており、西日を取り入れることを意識してある。
 - ・ 中央にある阿弥陀三尊像が雲上に立つ形態をとっており、西日を取り込むと、さながら極楽浄土から来迎した阿弥陀三尊の様子を見事に表している。
 - ・ 7月下旬から8月下旬の午後4時から5時が、浄土堂に一番よく西日が差し込み、阿弥陀三尊像と浄土堂内が美しく輝く時期である。
- 阿弥陀三尊像について
 - ・ 浄土堂中央の須弥壇（しゅみだん）に安置される、仏師快慶の代表作。巨大な三尊像で、中央の阿弥陀如来（あみだによらい）は像高5m30cm（須弥壇を含めると8m30cm）、両脇侍の観音菩薩（かんのんぼさつ）と勢至菩薩（せいしぼさつ）の像高は各々3m70cmある。
 - ・ 快慶の作品には像高3尺（約1m）の阿弥陀像が多いが、本作は珍しい大作である。3体とも立像であり、各像の立つ蓮華座の下には雲が表わされている。

4 展開の具体例

未来にのこそう わたしたちの浄土寺

- ・主 題 名 ・郷土の誇り C (17)
- ・資料の概要 ・ひとみは妊婦の姉に連れられて浄土寺を訪れたが、連れてこられた不満を口にする。けれども、この寺の歴史的価値を姉から教えてもらい、神々しい阿弥陀如来像を見て、美しさに心を奪われる。そして、生まれてくる赤ちゃんや友達に、浄土寺のすばらしさを伝えたいと感じ始める。
- ・ね ら い ・阿弥陀堂に入ってその神々しさに息をのんだひとみを通して、郷土を愛し、伝統と文化を継承しようとする道徳的心情を育てる。
- ・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・学習する道徳的価値に興味を持つ。	ふるさとの誇りは何ですか。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。	
	・浄土寺に着いた時の主人公の気持ちを考える。	「いまさら浄土寺に来て何が楽しいん?…」と言ったひとみはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・何回も来ているお寺に行っても、おもしろくない。 ・見たいテレビがあるのに、腹が立つ。
	・お堂に入った時の主人公の気持ちを考える。	お堂に入り、はっと息をのんだひとみは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・なんてきれいの! ・すごい!
	・初めてお堂に入った自分を恥ずかしく思っている主人公の気持ちを考える。	「ああ、私、何も…」の続きを、ひとみは心の中で何とつぶやいたのでしょうか。 ・全国的に有名ですごい建物だと分かってなかった。 ・阿弥陀様が、こんなにも美しいことを知らなかった。 ・浄土寺のすばらしさを、知ろうとしていなかった。
終 末	・振り返ってお堂を見つめる主人公の気持ちを考える。	振り返って阿弥陀様のいるお堂を見つめるひとみは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・浄土寺はふるさとの宝物だな。 ・浄土寺のすばらしさを知ってよかった。 ・浄土寺のすばらしさをみんなに教えてあげたいな。
	・感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

浄土寺に対して、郷土の誇りという意識が主人公にないことをおさえる。

主人公が感動し驚いている心に共感させる。

主人公は「何がわかっていなかったのか」を考えさせ、堂内の神々しい光景がきっかけとなり、「浄土寺は郷土の誇り」という意識が主人公に起こっていることをおさえる。

「郷土のすばらしい伝統文化を自分も未来に伝えていこう」という気持ちになっている主人公の心情の高まりをおさえる。